

日本語学基礎

[I] 下記の (1) ~ (3) の3つのテーマから2つ選んで論述せよ。解答用紙には選んだテーマの番号を明記すること。

出題意図 (1)は、自身が受けてきた文法教育（高校まで）と大学での文法研究との異同についての知識と、自身の言語教育観を問うことが目的である。(2)(3)は、日本語学の基礎的な知識を問うことが目的である。

(1) いわゆる「学校文法」は、「形式重視で意味を軽視している」と批判されることがある。この指摘について、具体例を挙げながら、自身の考えを述べよ。

採点要素 具体例が適切に述べられている
具体例を根拠にした自身の意見を述べている
+何のための「文法」であるかが述べられている

○品詞の場合：形容動詞の活用形 or 名詞+格助詞 この比較に意味はあるか？

例) 本気で走る（形容動詞連用形）
はだしで走る（名詞+格助詞）
ただし、意味的にはどちらも付帯状況

○「文節」の場合：述部について

例) 太郎が / 走って / いる。
形式的な分類で、意味的な分類ではない。
意味的には、むしろ「～ている」をひとまとまりとすべき
: 名詞句について

例) 梅の / 花が / 咲く。
形式的には「梅の」「花が」に分類されるが、
意味的には「梅の花」が
連文節の概念でも混乱する

○「文の成分」の場合：対格の「ガ」について

例) 水が / 飲みたい。
主語 述語
例) 形式的には「主語」
意味的には「(連用) 修飾語」

(2) 現代日本語における敬語の分類について、具体例を挙げて説明せよ。

採点要素 敬語の5分類が挙げられている
それぞれの分類が具体例とともに適切に説明されている

○敬語の5分類

尊敬語 謙讓語Ⅰ 素材敬語

謙讓語Ⅱ（丁重語）対者敬語

美化語

○上下だけでなく親疎による使い分けが具体例とともに説明されているとよい

○特に、謙讓語Ⅰと謙讓語Ⅱの違いについて、話題の人物と聞き手と敬意の対象が異なるという指摘があるとよい

(3) 日本語の語種の分類について、複数の具体例を挙げながら説明せよ。

採点要素 4つの分類が挙げられている

それぞれの分類に複数の具体例が挙げられている

それぞれの分類の具体例とともに「出自」が説明されている

○和語 漢語 外来語 混種語 の分類が挙げられている

○和語が元来の日本語（大和言葉）、漢語、外来語は輸入した語であることが具体例とともに説明されている

○漢語と外来語の共通点について説明できているとよい

○外来語の中には和製のものも含まれることが説明できているとよい

○英語の音声をカタカナ表記した語は、外来語といえるか（日本語として定着しているか）という点が説明できているとよい

○混種語について、和語＋外来語 漢語＋外来語などの例が挙げられているとよい

〔一〕 解答例(『竹取物語』の場合) 配点) 二作品を選び各5点(計10点)

『竹取物語』は現在最古の物語である。虚構を描く物語の祖と位置づけることができる。作者は未詳。成立は九世紀末から十世紀初めと考えられている。白鳥処女説話や難題婿譚といった複数の話形が活用され、人間世界の実相が鮮やかに描かれているとともに、かぐや姫という存在を通して人間の普遍的な感情が描かれたことで、『うつほ物語』や『源氏物語』など多くの作品に影響を与えた。日本文学史上、虚構の物語が発展していく基盤となった重要な作品である。

〔二〕 解答例 配点) 15点

『源氏物語』を取り上げ、現代における享受の有り様を述べる。『源氏物語』は他の平安文学作品よりも多様な形で享受されてきた。国宝『源氏物語絵巻』は、絵画によって『源氏物語』を享受した例として非常に有名であるが、その後も数多くの源氏絵が作成され、近世では挿絵入りの『源氏物語』版本も出版された。それらを引き継いだのが現代における漫画化であり、大和和紀『あさきゆめみし』がその代表だといえる。さらに『あさきゆめみし』は舞台化もされた。能や歌舞伎でも『源氏物語』を題材とした作品が上演されてきたが、『源氏物語』やその現代語訳による舞台化は大規模なホールでの上演から小劇場クラスまで多様である。一方で、映画やテレビドラマでの映像化もなされ、近年では、二〇二四年のNHK大河ドラマ「光る君へ」では『源氏物語』そのものが実写化されたわけではないものの、『源氏物語』がどのように制作されたのかを、主人公のまひろ(紫式部)と藤原道長の関係性のなかで位置づけていた。このような絵画化・舞台化・映像化といった享受は、古典文学が苦手であっても理解しやすい反面、『源氏物語』を誤読する可能性を含む。しかし、そうしたデメリットがありながらも、『源氏物語』をはじめ古典文学への興味をかきたてることができるのであれば、今後もこうした享受の方法が広がることで古典文学を次世代に読み継ぐことが可能になると考えられる。

受験番号	氏名	得点	

解答用紙 上代(志望専門分野) 解答例

〔一〕 解答例 配点)二首を選び各6点(計12点)

ア) 田子の浦を通って出て見ると、真つ白に富士山の高いところに雪が降っていることだ。

イ) 憶良めはもう退出いたしましたよ。(家で) 子どもが泣いているでしょう。そしてその子の母も私を待つて
いるでしょうよ。

ウ) あなたを待つて恋しく思っている、わが家の簾を動かして秋の風が吹くことよ。

エ) 多摩川に曝す手作りの布のように、さらにさらにどうしてこの子がこれほどいいのだろうか。

オ) 防人に行くのは誰の夫かことばをかけている人を見るのがうらやましい。何の物思いもなく。

〔二〕 解答例(①は『万葉集』の場合) 配点)①か②のどちらかを選択 13点

①『万葉集』は現存する最古の歌集であり、全二十巻、約四五〇〇首が収められている。編者は未詳であるが編纂の最終段階には大伴家持が関わっていたと考えられている。雑歌・相聞・挽歌の三つの部立があり、表現上の分類に、寄物陳志歌・譬喩歌などがある。短歌が九割以上を占めるが、長歌・旋頭歌などがある。歌風はおよそ四期に分けられるが、中心となる時期は第二期・第三期であり、枕詞・序詞・対句などの表現技法が発達した。第二期の代表歌人は柿本人麻呂、第三期の代表歌人は山部赤人・山上憶良・大伴旅人である。『万葉集』の日本文学史における最大の意義として、我が国最古の歌集であることが挙げられる。加えて、宮廷歌人のみならず東歌・防人歌に見られるような民衆の感動を伝える歌までもが残されたことで、古代日本の文化や社会状況を知ることができる。

②中学や高校における国語教育のなかで、『万葉集』を学ぶ意義は二つあると考える。一つは古代社会に生きた人々の考えを知ることである。一三〇〇年以上前を想像することは難しくとも、その時代に生きた人々の歌を学ぶことで、何を考へ、何に心を動かされたのかを知ることができる。そこから古代社会に生きた人々と共通の心情を理解することができる。二つ目に、古代の言葉を知ることである。現在とは違う言葉や表現に触れることで、日本語の変遷に興味を持つことができるだろう。三つ目に、文化の多様性を理解することである。多様性が重要視される現代社会において、残念ながら日本は多様性を受け入れることが苦手な国である。しかし、『万葉集』には階層の違う人々や都だけではなく地方の人々の歌が載り、それらの歌が詠まれた時代はシルクロードの文物がもたらされ、海をこえた先の国と交流する国際性の高い時期であった。異なる文化と触れることで広がった文化の多様性を、『万葉集』から理解することができるのである。

受験番号	氏名	得点	

